

趣旨

(背景)

- 現体育館は、1964年10月の東京オリンピックの直前に完成し、以来、半世紀以上、夏の風物詩にもなっている大相撲名古屋場所の開催などを通して、県民に親しまれている施設である。
- しかしながら、施設の老朽化とともに、同じ頃に建設された、国内の他のスポーツ施設と同様に、規模、機能とも国際水準を満たしていない。
- そこで愛知県では、2026年アジア競技大会に利用できるよう、新体育館の整備に向けた準備を進めることとした。

(基本計画について)

- 新体育館は、PFI 事業による整備に向けた準備を進めるため、現時点で県が考えるイメージを「愛知県新体育館基本計画」として取りまとめた。
- この基本計画を踏まえ、名古屋市の公園計画等との整合性などを図りながら引き続き協議をしていく。

新体育館は、国際大会を開催するために必要な規模、機能を有することで、国際スポーツ大会などの誘致を可能とし、かつ大相撲名古屋場所の開催など現体育館が担ってきた伝統や歴史をさらに発展させていく愛知・名古屋のシンボルとなる施設を目指す。

5つのコンセプト

1. 大相撲名古屋場所にふさわしい風格のある施設
2. ピンポン外交など50年以上の愛知県体育館の歴史を引き継ぐ施設
3. 全国大会を常時開催できる施設
4. アジア大会を始めとした国際大会を開催できる施設
5. 全国レベルのコンサート、イベント、コンベンション等の拠点となる施設

概算事業費

新体育館の概算事業費については、建築延床面積を約43,000㎡(新体育館配置案をベースに算出)とし、類似施設を参考に約300億円(約70万円/㎡)と想定した。

スケジュール



概略諸元

	基本計画案の概要	基本計画案の特徴	有明アリーナ(計画時)	横浜アリーナ
施設規模	建築面積：20,000㎡程度 延床面積：43,000㎡程度 建物高さ：3.1m		約47,000㎡	約45,000㎡
観客関連エリア	23,000㎡程度 固定席：11,000席 〔固定席11,000席(2~4階)〕 VIP室 15室程度 諸室：エントランス、コンコース、テナント(飲食、物販)、トイレ、VIP室、VIPラウンジ、VIP専用エントランス	○フィギュアスケート開催時に11,000席確保 ○バレーボール・バスケットボール国際大会決勝戦時に15,000席確保(可動席・仮設席含む) ○大相撲開催時に11,000席確保(升席、溜席、固定席含む) ○VIP専用の動線を確保	約24,000㎡ 観客席：15,000席(可動席、仮設席含む) 諸室：エントランス、コンコース、テナント、トイレ、VIP室、VIP席、VIPラウンジ、BOX室	約16,500㎡ 観客席：約15,000席(固定席：6,400、可動席：8,600) 諸室：エントランス、コンコース、テナント、トイレ、VIP室、VIP席、VIPラウンジ、BOX室
競技面等関連エリア	7,500㎡程度 メインアリーナ：4,500㎡〔可動席3,000席〕 サブアリーナ：1,500㎡ 多目的ホール：1,500㎡	メインアリーナ：8.5m×5.3m(可動席含む) 〔アイススケートの6.3m×3.3m、バスケット4面の場合7.6m×4.7m必要〕 天井高は映像設備を設置時12.5m以上確保 サブアリーナ：5.0m×3.0m(バレーコート二面の確保) 多目的ホール：5.0m×3.0m(サブアリーナと一体利用可能)	約6,000㎡ メインアリーナ：約4,500㎡(可動席含む) サブアリーナ：約1,500㎡ センターコート等：約2,000㎡	約11,000㎡ メインアリーナ：約8,000㎡(可動席含む) サブアリーナ：約1,000㎡ センターコート等：約2,000㎡
選手関連エリア	1,000㎡程度 諸室：更衣室、監督室、ウォームアップエリア、ドーピングコントロール室、医務室、浴室	○選手関連エリア動線の明確な分離 ○選手関連諸室の確保 ○大相撲名古屋場所に備えた浴室の確保	約2,000㎡	約2,500㎡
運営、メディア関連エリア	1,500㎡程度 諸室：会議室、控室(運営室、会議室、委員長室、記録室、更衣室、審判控室、記者室、会見室、カメラマン室)	○運営、メディア関連諸室の確保 ○会議室、控室は多目的に様々な規模で利用できるよう可動間仕切り壁を設置		
施設管理関連エリア	10,000㎡程度 諸室：セントラルキッチン・パントリー、警備室、警備・警察・消防控室、救護室、倉庫、機械室、清掃室、事務室等	○VIPラウンジやレセプション会場へ飲食提供するため、セントラルキッチン確保 ○メインアリーナへ大型資材を直接搬入できるようにするため、大型車両(11t)の進入路を確保 ○施設管理関連諸室の確保	約15,000㎡ ベデストリアデック、警備室、警察・消防控室、救護室、倉庫、防災倉庫、機械室、清掃室、事務室等	約15,000㎡ ベデストリアデック、警備室、警察・消防控室、救護室、倉庫、機械室、清掃室、事務室等

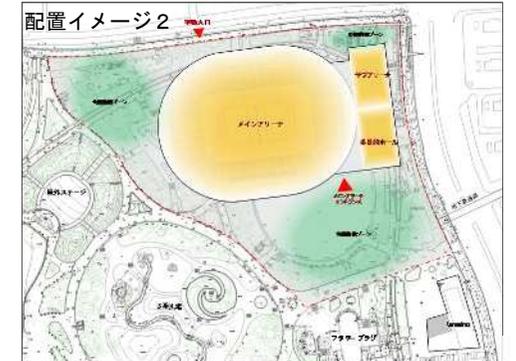
計画地



配置イメージ1

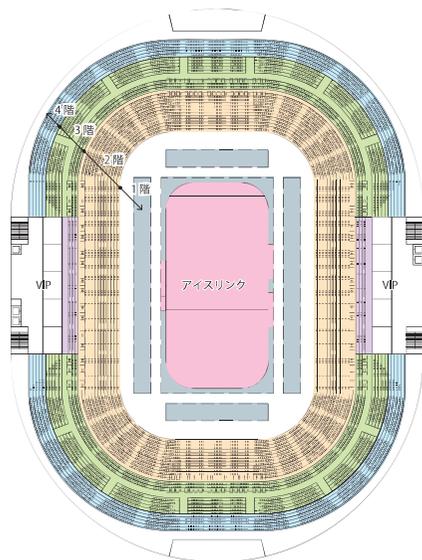


配置イメージ2

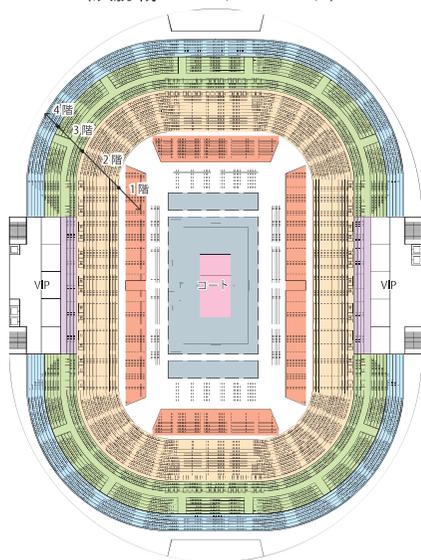


メインアリーナ観客席概要

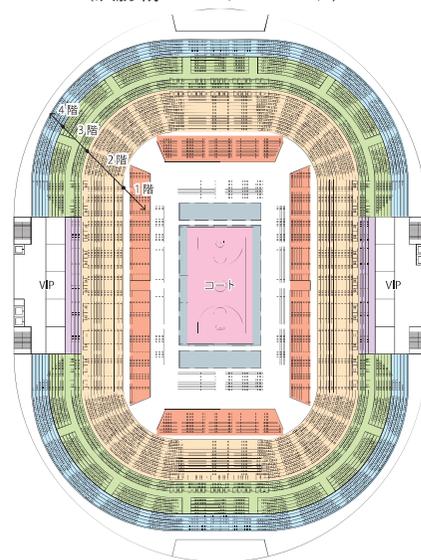
フィギュアスケート



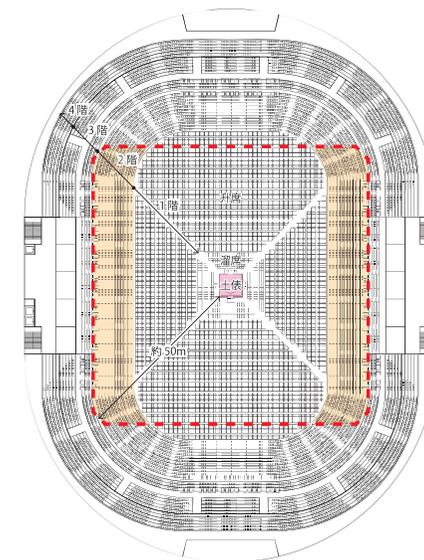
バレーボール
(決勝戦：センターコート)



バスケットボール
(決勝戦：センターコート)



大相撲



〈席内訳〉

		フィギュアスケート	バレーボール・バスケットボール		大相撲
4階	一般用	約 2,450席 (VIP室：5室程度)			使用しない
3階	一般用	約 2,850席 (VIP室：10室程度)			使用しない
2階 (固定席)		約 5,700席		約 11,000席	約 2,800席
1階 (競技面)	可動席	使用しない	約 3,000席	約 14,000席	使用しない
	仮設席	-	約 1,000席		(升席) 約 7,800席 (溜席) 約 400席
合計		約 11,000席 【基準なし】	約 15,000席 【国際大会基準(15,000席以上)】		～約 11,000席 【両国国技館：11,000席、現名古屋場所：約8,300席】
備考 (※)		○アイスリンク周辺には、大会関係者席、審判員席、メディアスペース、キス&クライ(選手・コーチが審査結果を待つスペース)等の競技用スペースが設けられる。 ○競技用スペースを除く部分には、通常仮設アリーナ席が設けられるが、設置席数は大会により異なるため不算入とした。	○観客席は、国際大会決勝戦に対応するための席数を設置した。 ○通常、アリーナ競技面には、観客席の他、大会関係者席、メディアスペース、コーチ、控選手の待機等のためのスペースが設けられる。		○取組や土俵上の音の可視・可聴距離を最大約50m(国技館同等(赤破線枠内))として、設置席数を想定した。 《大相撲協会ヒアリング(参考)》 ○会場が広すぎると、行事の声、力士のぶつかる音などが聞こえづらくなる。

